

地域文化学科 カリキュラムマップ(日本研究コース科目)(2020年度入学生)

地域文化学科のディプロマポリシーに加え、次のような知識や能力を備えた学生に学士(地域文化)の学位を授与します。

①日本の社会で生活し、自国や日本で就職するのに十分な日本語能力と日本文化についての豊かな知識を身につけている(技術・知識・思考)
 ②自国と日本の懸け橋となって活躍することができる(意欲)
 ③国内外の大学院に進学を目指し、日本語・日本文化の理解をさらに深めることができる(態度)
 ④あらゆる分野で日本語を用いて活躍することができる(行動)

科 目 名	授業形態	配当年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	
日本研究入門	講義	1	2	日本研究の入門者、特に留学生に向けた入門科目であり、主に日本の基本的な生活文化について学ぶ。	1.日本の一年を通した伝統行事を知る。 2.行事が行われる歴史・文化的背景への知識を深める。	◎		○		
ナラロジー研究入門	講義	1	2	ナラロジーとは、グローバル化のなかの奈良研究、を意味しており、「奈良を学ぶことは、日本を学ぶこと」「異文化間交流による生成、発展のプロセスを学ぶ」という基本概念に基づき、奈良という地域の総合的研究であることを目指していることを学ぶ。	1.奈良という地域を、歴史的・現代的に幅広く学ぶ。 2.奈良の地域・文化社会がいかに、人と人、人と自然の交流によって生成してきたかを知る 3.自身の意見を、他者の多様な見方と比較しつつ、理解を深める。	◎		○		
世界史のなかの日本	講義	1	2	留学生に向けて、旧石器時代から現代までの日本の通史を、留学生の母国の歴史と対比することで、日本の歴史の大きな流れをつかむ。	1.同時代ごとの、日本と諸外国の歴史を対比しつつ理解を深める。 2.特に20世紀以降の日本の世界における位置づけを知る。	◎		○		
世界の文化交流と日本	講義	1	2	世界における文化交流のダイナミズムと、その中で日本はどのような文化交流を行ってきたか、特筆すべき事例を概観する。	1.日本の企業文化を知る。 2.企業文化を通じた海外との交流を知る。		◎	○		
異文化体験活動1	実習	1・2・3・4	1	日本の文化に生で触れる貴重な機会として、学生が自主的に体験活動の内容を企画し、担当教員に相談の上実践する。	1.日本に在住しているからこそ体験できる活動を行う。 2.活動を企画し、報告書としてまとめる能力を養う。	○	◎			
異文化体験活動2	実習	1・2・3・4	1			○	◎			
ナラロジー演習1	演習	3	2	いわゆるゼミとよばれる少人数の演習科目で、卒業論文の作成を最終目的とする。所属する研究コース教員が担当するゼミを履修する。「生活文化」「表現文化」「社会文化」はそれぞれ複数の学問分野を含む学際的な領域を示している。	1.研究論文を読解できる。 2.文献をまとめてプレゼンできる。 3.関心のあるテーマに関して文献・フィールド調査できる。 4.特定のテーマに関する議論に参加し貢献できる。 5.関心のあるテーマに関して独自の意見を形成できる。	○	○	◎	○	
ナラロジー演習2	演習	3	2			○	○	◎	○	
ナラロジー演習3	演習	4	2	フィールドワーク、アンケート調査などを駆使する主体的な学びの場であり、地域文化学の実践的教育を目的とする。「ナラロジー」は日本研究コースにのみ設置されるゼミである。		○	○	◎	○	
ナラロジー演習4	演習	4	2			○	○	◎	○	
卒業課題研究		4	2	日本研究コースのみの形式で、目的は卒業論文と同様である。	1.先行研究に関する文献調査ができる。 2.テーマに関するフィールド・アンケート調査ができる。 3.独自の意見を形成できる。 4.意見を論文のルールにしたがって表現できる。	○	○	◎	○	
日本研究コース科目	日本生活文化概論	講義	2	2	生誕、学校教育、就職(社会人)、結婚、子育て、老後、死、という現代の日本人のライフコースを概観し、価値観や社会問題などを見る。	1.現代日本人のライフコースを知る。 2.人生のそれぞれの段階における価値観や問題について知る。	○	◎		
	日本表現文化概論	講義	2	2	日本の文学、伝統的及び現代的な身体表現の文化を概観する	1.日本の文学、代表的な芸能などを歴史的に概観する。 2.日本の芸術文化に触れる。	○		◎	
	日本社会文化概論	講義	2	2	日本人のライフスタイルをキーワードに、日本の社会を学ぶ	1.ライフスタイルを通じて日本社会を知る。 2.ライフスタイルの異文化比較を通じて学ぶ。	○	◎		
	ナラロジー概論	講義	2	2	奈良という地域を歴史的および現代的な現象を、異文化交流、異文化の視点を通して学ぶ。さらに奈良地域に見られる諸問題の特定と取り組みを見る。	1.異文化交流の持つ文化創造力を知る。 2.異文化的価値基準により奈良を見なおす。 3.社会問題への取り組みを知る。		○	◎	
	日本コミュニケーション文化概論	講義	2	2	フィールドワークなどで得た知見を、マンガ表現によってまとめ上げる。消費者として読むマンガではなく、マンガの制作を体験する。	1.ノンヴァーバルコミュニケーションの可能性を知る。 2.マンガ制作を通じて調査力、企画力、創造力を養う。		◎		○
	日本精神文化概論	講義	2	2	古代からの思想・宗教の影響を把握する歴史的な視点と、現代の人々の生活実践を把握する民族誌的な視点から、日本の精神文化についての基礎的な理解を得る。	1.日本の精神文化の地理的、歴史的背景の理解。 2.関連の用語の習得。		◎		○
	日本多文化共生概論	講義	2	2	ディアスポラなど、世界の多文化共生あるいは混成の実態と、日本国内の実情を比較し理解する。	1.多様な文化のなかの共通項を知ろうとする。 2.日本がすでに多様な民族や価値観の交流の中にあることを自覚する。			○	◎
	日本生活文化特論	講義	3・4	2	日本人のライフコースの中で、最も長い時間を過ごすと思われる職業人生について、主に会社生活の諸相を学ぶ。	1.日本人にとって仕事とはどのような意味を持つのかを学ぶ。 2.日本の会社の職場生活の諸相を知る。		◎	○	
	日本表現文化特論	講義	3・4	2	日本最古の芸能書とされる『風姿花伝』(現代語訳)を読み、日本の身体表現の姿と精神性を見る。	1.身体表現上の、日本の伝統的な精神性を知る。 2.日本の文学表現の古典を鑑賞する。			○	◎
	日本社会文化特論	講義	3・4	2	戦後の日本経済の歴史を見る	1.日本経済の発展過程を高度経済成長期を通して理解する。 2.高度経済成長期における日本の産業発展(Made in Japan)の特徴を理解する。 3.バブル経済崩壊後の日本経済の概要を理解する。			○	◎
ナラロジー特論	講義	3・4	2	異文化の基準、あるいは普遍的基準に基づき指定されたり発生した、奈良地域にある、「世界遺産」「日本遺産」「美しい村」などを事例にして、どのように諸基準が満たされていたり、満たされようとしているのかを文献や現地調査を通して探る。	1.奈良地域の歴史的産物が、どのように異文化あるいは普遍的価値基準により定められたのかを知る。 2.それら価値基準を満たそうとつづける、現場の営為努力の姿を知る。		◎	○		

科目名		授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	
ディプロマ・ポリシー		地域文化学科のディプロマポリシーに加え、次のような知識や能力を備えた学生に学士(地域文化)の学位を授与します。 ①日本の社会で生活し、自国や日本で就職するのに十分な日本語能力と日本文化についての豊かな知識を身につけている(技術・知識・思考) ②自国と日本の懸け橋となって活躍することができる(意欲) ③国内外の大学院に進学を目指し、日本語・日本文化の理解をさらに深めることができる(態度) ④あらゆる分野で日本語を用いて活躍することができる(行動)									
日本研究 コース 科目	日本情報文化特論	講義	3・4	2	日本のマスメディア、マスコミの特性について学ぶ。	日本の新聞、雑誌、テレビニュースなどを材料にして日本のマスコミの傾向・特性について学ぶ。			◎	○	
	日本環境文化特論	講義	3・4	2	日本の環境問題への時組みとエネルギー問題に関わる原子力利用への姿勢について考察する。	1.日本の産業化にともなう環境破壊と公害対策を知る。 2.日本のエネルギー問題と特に原子力への取り組みの歴史を知る。		◎		○	
	日本経営文化特論	講義	3・4	2	ヒト・モノ・カネ・情報を日本の文化ではどのように活用してきたのか、実例を通して学ぶ	1.ソリューションの意識を高める。 2.ソリューションにいたるプロセスを学ぶ。			◎	○	
地域言語 (日本語)	入門科目 (選択)	入門日本語A(会話)	演習	1	1	日本語の音声や文章に慣れし、自己表現や相手とのコミュニケーションができるようになる。	1.ひらがな、カタカナと漢字600字程度を修得する。 2.日常生活に必要なコミュニケーションができる。 3.基礎的な文法項目を用いて短い文章を書くことができる。 4.ふりがなのついた短い文章を読むことができる。	◎	○		
		入門日本語A(文法A)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語A(文法B)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語A(作文)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語A(講義)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語A(表記)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語A(総合)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語A(表現)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語B(会話)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語B(文法A)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語B(文法B)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語B(作文)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語B(講義)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語B(表記)	演習	1	1			◎	○		
	入門日本語B(総合)	演習	1	1	◎	○					
	入門日本語B(表現)	演習	1	1	◎	○					
	基礎科目	基礎日本語A(会話)	演習	1・2	1	入門科目で習得した知識をさらに確かなものとし、ヒアリングや自己表現の幅を広げるとともに、読解力および作文能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を高めることができる。	1.日本語でレポートを書くことができる。 2.ふりがなのついた新聞、現代文学を読むことができる。 3.自分の意見や考えを発表することができる 4.入門に加えて新たに漢字600字程度を修得する。	◎	○	○	
		基礎日本語A(文法A)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語A(文法B)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語A(作文)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語A(講義)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語A(表記)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語A(総合)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語A(表現)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語B(会話)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語B(文法A)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語B(文法B)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語B(作文)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語B(講義)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語B(表記)	演習	1・2	1			◎	○	○	
	基礎日本語B(総合)	演習	1・2	1	◎	○	○				
	基礎日本語B(表現)	演習	1・2	1	◎	○	○				
	発展科目 (選択)	発展日本語A(実践)	演習	1・2・3	1	学生は目的に応じて科目を選択し、就職や進学に必要な日本語能力と情報収集力を身につけることができる。	1.日本語で論文や研究計画、エントリーシートを書くことができる。 2.専門書や論文を書くことができる。 3.日本語能力試験N1に対応できる。 4.面接で自己アピールができる。	◎	○	○	
発展日本語A(会話)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語A(作文)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語A(講義)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語A(ビジネス)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語B(実践)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語B(会話)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語B(作文)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語B(講義)	演習	1・2・3	1	◎	○	○					
発展日本語B(ビジネス)	演習	1・2・3	1	◎	○	○					

地域文化学科 カリキュラムマップ(2020年度入学生)

科 目 名		授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号						
							◎達成のために特に重要 ○達成のために重要						
							①	②	③	④	⑤	⑥	
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(地域文化)の学位を授与します。 ①異文化理解に必要な外国語(日本語)能力と情報収集力を身につける(技術) ②世界や地域に共存する多様な文化について、学際的な見地から理解しようとする見識を身につける(知識) ③世界や地域の諸問題に関心を持ち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる(思考) ④日本語と外国語を駆使して異文化交流に積極的に取り組むことができる(意欲) ⑤多様性を尊重し、言語・文化を異にする他者と共に生きることができる(態度) ⑥国際交流、海外伝道、国際観光、国際スポーツ指導、国際ビジネスなどにおいて「他者への献身」の精神をもって活動することができる(行動)											
地域研究方法論	講義	2	2	地域研究に限らず、人間集団の多種多様な調査に役立つ方法の一つの柱である「フィールドワーク」の基礎手法とマナーを実習を通じて学習する。	1.「フィールドワーク」を身近なものと感じることで、自文化でも異文化でも、一般社会生活に活用できることを知る。 2.「フィールドワーク」を行うことで、当たり前と思っていた「日常生活」の見えざる諸側面を知り、日常を「非日常化」することができるようになる。	○	○	◎					
世界の地理	講義	1	2	アジア、アフリカ、ヨーロッパ、日本において自然と深く関わりを持つ民族を取り上げ、自然環境と人間が形成する文化・生活・社会の関係を学ぶ。	1.豊かな自然環境に支えられた人々の文化や社会の多様性と暮らしの知恵を知る。 2.このような人々が現在抱える問題の解決策を探る姿勢を身につける。			○	◎			○	
世界の歴史	講義	1	2	「ヨーロッパ世界の源流」をテーマとして、古代ギリシア・ローマの古典古代世界を学ぶ。その社会・文化の多様性を理解するとともに、キリスト教の成立と発展にも注目し、「ヨーロッパとはなにか」を考える。	1.古代ギリシア・ローマ世界における、民族・言語・国家の枠組みを超えた「ヨーロッパ意識」「ヨーロッパ的価値観」を理解し、説明できるようにする。 2.国民国家的な視点ではなくアジア、ヨーロッパといった広い枠組みで歴史をとらえ、その大きな流れを理解し、説明できるようにする。			◎				○	
世界の情勢	講義	1	2	この授業では、グローバル化の時代と言われて久しい現代社会の有機な繋がりに関して、理解を深めることを目標とする。例えばシリア内戦の激化と欧州政治の右傾化傾向など、一見かけ離れた事象がどのように連関しているかを学んでいく。	1.世界の情勢について、基本的な知識を身につける 2.様々な事象のつながりに関して、自らの知識をもとに考察する能力を身につける 3.新聞等の報道に関心を持ち、批判的に読めるようになる			◎	○				
世界の観光	講義	1	2	18世紀におけるイギリス貴族の子弟のいわば「修学旅行」であったグランドツアーと江戸時代の伊勢参詣を2本の軸として、近代におけるヨーロッパと日本の観光旅行のあり方を比較し、その共通点と相違点を学ぶ。	1.個人による「旅」ではなく、制度として「旅行」が成立してゆくプロセスを理解する。 2.「旅行」という身近な事象を通じて、異文化を比較する視点を身につける。			◎	○			○	
世界のスポーツ文化	講義	1	2	スポーツイベントを題材に、世界の様々なスポーツ文化やスポーツ事情を知り、それについて興味関心・知識を深める。	1.世界の様々なスポーツ文化やスポーツ事情を知り、興味関心を持つ。 2.スポーツを通じた異文化理解の方法を身につける			◎	○				
多文化共生論	講義	2	2	異なる文化や民族との共生は、グローバル化が進んだ現代社会の重要課題の一つである。この授業では、「負の教材」として日本のマイノリティ(アイヌ、沖縄、在日コリアン、日系ブラジル人)が経験した同化の歴史と彼らの豊かな文化について考察する。	1.日本の近代化プロセスと「単一民族神話」の関係を説明することができるようになる。 2.日本に暮らすさまざまなマイノリティが辿ってきた歴史を踏まえ、あるべき多文化共生社会に向けて具体的な提言を発信することができる。			○		○	◎		
スポーツ文化概論	講義	2	2	目的によって4つに分けられた「学校スポーツ」「余暇スポーツ」「一般スポーツ」「チャンピオンスポーツ」の現状や問題点・課題等について学ぶ。	1.4つに分類されたスポーツの現状や問題点について説明できる。 2.スポーツが人間社会に影響を与える文化的価値を持っていることを理解する。			○	◎				
スポーツ文化特論	講義	3	2	生涯スポーツとしてのマラソン・ランニングを多面的に学ぶことで、文化としてのマラソンについての基礎的知識を習得する。	1.「文化としてのマラソン」に関心を持って、魅力に気が付けるようになる。 2.マラソン実践に必要な知識や技術を身につける。			○			◎	○	